

令和元年

# 決算審査特別委員会会議録

令和元年10月11日

( 第 3 日 )

忠岡町議会

令和元年 決算審査特別委員会会議録（第3日）

1. 出席委員は、次のとおりであります。

委員長	三宅 良矢	副委員長	小島みゆき
委員	杉原 健士	委員	是枝 綾子
委員	松井 匡仁	委員	前川 和也

1. 欠席委員は、次のとおりであります。

なし

1. 本委員会に、出席を求めた理事者は、次のとおりであります。

町 長	和田 吉衛	教育長	富本 正昭
町長公室長	柏原 憲一	町長公室次長兼人権広報課長	
住民部長	軒野 成司		明松 隆雄
健康福祉部長	東 祥子	産業まちづくり部長	藤田 裕
教育部長	立花 武彦	教育部理事兼学校教育課長	
消 防 長	花野 勝也		石本 秀樹
消防次長兼消防署長	森下 孝之		

（各課課長同席）

1. 本議会の職員は、次のとおりであります。

事務局長	阿児 英夫
主 査	川端 謙太

(会議の顛末)

委員長 (三宅良矢議員)

おはようございます。それでは、昨日に引き続きまして決算審査特別委員会を再開いたします。

(「午前10時00分」再開)

委員長 (三宅良矢議員)

これより意見集約を行います。各委員よりご意見をお願いいたします。

前川委員。

委員 (前川和也議員)

大阪維新の会の前川和也です。30年度の決算審査が終わり、意見を申し上げます。

平成30年度は、本町におきまして、台風の大災害により多くの家屋が損壊するなど、過去に経験したこともないような甚大な被害が発生し、今もなおブルーシートの屋根が見受けられることから、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、30年度一般会計決算におきましては、歳入差引額は7,558万2,000円、実質単年度収支は1億5,658万4,000円と、29年度に比べ大きく改善し、財政調整基金を取り崩すことなく単年度黒字とのことでしたが、経常収支比率が103.9%と、17年連続で100%を超えております。

国の財政状況から地方交付税についても厳しい状況にある中、今後も公共施設の老朽化に伴う施設整備も見込まれるとともに、さらなる住民ニーズに的確に対応していくためにも、引き続き行財政改革、そして広域行政の推進を断行し、持続可能なまちづくりをお願いいたします。

個別の政策について歳入関係では、大阪府地域徴収機構への職員派遣等、徴収体制の強化を図ったことでの徴収率の向上や、ポータルサイトの活用によるふるさと応援寄付金の増について、取り組みを進めていただきました。これについては引き続き推進をしていただきたいというふうに思います。

歳出関係については、健康保持・増進において、健康マイレージ事業、各種健康診断事業などを行うとともに、新たな事業として健幸まつりなども行われました。

引き続き内容の充実を図っていくなど、参加者の増に向けての取り組みをお願いいたします。

教育、子育て支援の充実に向けては、忠岡地区において公私連携によるこども園の設置、こども医療の中学校卒業までの引き上げ、特別支援教育就学奨励費の新設、あすなる未来塾、英語教育関連事業の継続、拡充などに取り組んでいただきました。

30年度末には、第1次忠岡町子ども読書活動推進計画が策定されました。子どもの読書活動は、言葉を学び、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身

につけていく上で、欠くことができないものでありますことから、計画的な取り組みを進めていただきますようお願いいたします。

スポーツセンターにつきましては、耐震化工事を行い、住民から要望が多かった温水プールについて指定管理者制度への移行に向けた取り組みにより、31年度から通年営業されることとなりました。引き続き、積極的に民間の活力導入について取り組んでいただきたいと思います。

水道事業につきましては、31年度4月から大阪広域水道企業団と統合されました。支障なく移行できるよう状況を注視していただく必要があります。

観光事業におきましても広域化が実施されました。財政からの観点だけではなく、小さな町単独では得ることができないようなスケールメリットを生かした事業の実現に向けて、さまざまな行政分野においてより一層の広域行政の推進にも力を入れていただきますようお願いいたします。30年度決算につきましては認定といたします。

以上です。

委員長（三宅良矢議員）

ありがとうございます。

次に、ご意見をお願いいたします。松井委員。

委員（松井匡仁議員）

無所属なだ会、松井です。平成30年度一般会計、各特別会計、水道事業会計につきまして意見を申し述べます。

本年度一般会計決算におきましては、景気回復に伴う税収の増加に加え、町長を初めとする理事者の皆さんの懸命な財政再建努力、また、全国からの熱い応援寄付と、それにかかわっていただきました本町事業者様の応援、そして何よりも長きにわたり我慢に我慢を重ねてくださった忠岡町民の皆様の努力の結果、単年度ではありますが、財政調整基金を取り崩すことなく、黒字の決算委員会を開くことができました。ありがとうございます。

本年度におきましては、認定こども園の開園やスポーツセンターの開設など、新たな施策の年度となりました。

また、地方税の徴収強化対策事業におきましては、滞納繰越徴収率が大阪府内1位を達成したとの報告がありましたこと、高く評価したいと思います。

予算におきましては、「忠岡町民の命と財産を守る、安心・安全なまちづくり」の実現のため、防犯事業、交通安全対策費用、防災対策費用、施設老朽化対策費用などのさらなる強化を期待し、本決算を認定いたします。

以上です。

委員長（三宅良矢議員）

ありがとうございます。

次に、小島副委員長、お願いいたします。

委員（小島みゆき議員）

平成30年度忠岡町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算について、公明党の意見を申し上げます。

平成30年度決算は7,210万円の黒字との説明であります。中身については主に、地方交付税、ふるさと忠岡応援寄附金、個人住民税、法人町民税の増によるものであるとのことで、一方では、平成31年度に向け、認定こども園施設整備事業、スポーツセンター整備事業などによる2億1,000万円の町債の増であります。

認定こども園については、開園に向け我が党も推進してきたところであり、スポーツセンターについては、再開を願っていた住民の声であり、評価するものであります。

そしてこの年、9月4日に台風21号による甚大な被害を本町も受けました。1年が経過し、ようやく復旧したかのように思います。

昨今の自然災害は、想像以上のものがあり、引き続き防災減災対策に取り組まれるよう、また少子高齢化、人口減少化についても待ったなしであり、果敢に取り組んでいただくことを要望し、本決算を認定いたします。

委員長（三宅良矢議員）

ありがとうございました。

次に杉原委員、お願いします。

委員（杉原健士議員）

本年は10月に町制施行80周年という記念すべき年でありまして、昨年度は皆さん述べられておりますように台風被害とか甚大な被害を受けておりまして、まだまだ完璧にお家の整備等々をやっていない方々が多数おることに心からお見舞いしたいと思います。

それでは、呈祥会、杉原の意見を述べさせていただきます。

平成30年度忠岡町一般会計、各特別会計の歳入歳出決算の意見を述べます。形式収支は7,558万2,310円、実質収支は7,210万2,310円で黒字となっている。単年度の収支については、歳入において、個人町民税、法人町民税は増となったが、固定資産税が減となり、町税全体では1,257万8,000円の減となっております。

地方交付税の増、地方消費税交付金の減、国庫支出金は保育所等整備交付金などの増により2,840万9,000円の増、府支出金は認定こども園整備事業やスポーツセンター整備事業債などの増により2億1,048万7,000円の増となっております。

一方、歳出では、扶助費の減、公債費ではシビックセンター建設債などの償還完了に伴う減により、スポーツセンター耐震化等整備工事や認定こども園整備補助金などが、かわって増となっているところであります。

平成26年度から平成29年度の4年間において、財政調整基金を取り崩して収支を調整していましたが、平成30年度決算において、財調を取り崩すことなく7,210万円

の黒字となっているところでございます。なお、庁舎建設債の大部分の償還が完了となったことから収支は改善される見込みであります。今後も新たな支出に備えるべく引き続き財政健全化に努めてほしいものでございます。

今決算でもいろいろと委員からの指摘がありましたように、入札方法の見直し、クリーンセンターの速やかな広域化、ちょっとした小さな委託料に至っても毎年同じ答弁を繰り返しておりますが、我々議会と理事者皆様が今後も両輪となって、あすの忠岡町へと前進していきたいと思っております。

よって、本決算には賛成いたします。

以上でございます。

委員長（三宅良矢議員）

ありがとうございます。

次に是枝委員、お願いいたします。

委員（是枝綾子議員）

2018年度決算について日本共産党議員団の意見を申し上げます。

この年度、昨年、9月4日の台風21号という大変大きな被害があり、いまだブルーシートがかかっている家も目立ちます。国や府、町としての被災者支援が今後も求められているところであります。

この年度は、台風21号の被害の対応という大きな行政課題がありました。職員の方々は、災害ごみの回収・処分の対応を初め、被害を受けた公共施設の修理や被災された住民への対応にと奮闘されました。災害対策については多くの課題が見え、今後の対策に生かすべく検討がされているところであります。防災・災害対策の計画の整備を求めてまいりたいと思っております。

本町の財政状況は、シビックセンター債の償還がこの年度で終わったため、公債費が減り、今後は公債費比率・経常収支比率がともに改善していく見通しであります。財政調整基金をこの年度は取り崩すことなく、実質収支は7,210万2,000円の黒字となりました。

歳入では、地方交付税の障がい児保育の密度補正係数の見直しだけでも1億円余りの増となり、ふるさと応援寄附金が約1億5,000万円ありました。

歳出では、この年度の主な施策として、子ども医療費助成の通院分も中学校卒業までの拡充、就学援助の小学校入学準備金の前倒し支給、支援教育奨励費の実施、子ども食堂への補助、指定管理ではありますが温水プール再開のための耐震化工事、保護者の要望に応え、忠岡東幼稚園のリズム室にエアコンの設置などがありました。

大きな問題としては、①国保の都道府県化で低所得の方の保険料が上がったこと、②介護保険料24%の値上げが行われたこと、③町立忠岡保育所と忠岡幼稚園を民営化した認定こども園化する予算が生まれたこと、そして④広域化を進めているのにクリーンセンタ

一の長期包括を今後さらに10年も延長する計画が行われようとしていたこと。しかし、クリーンセンターの今後10年のこの計画案は議会で否決され、とりあえず1年間は単年度契約することになりました。

決算審議の中で、入札における最低制限価格の事前公表など入札制度の改善、ごみ処理の広域化協議の前進の報告、中小企業利子補給の引き続きの実施、介護保険の総合事業でも現行相当サービスで介護水準を維持、来年度から始まる会計年度任用職員制度では、臨時職員の労働条件を向上させることなどが表明されました。

財政運営については、行政の無駄を省き、町民の暮らしの予算拡大に使われることを強く求めます。そのためには、①消費税交付金の社会保障分は一般財源の置きかえではなく、1億3,230万9,000円ありますので、福祉の向上のために使われること。

②ふるさと納税でこの間基金に積んできた2億8,936万7,000円は、1円も取り崩していないため、町民福祉施策の前進に使われること。

③委託契約については、随意契約や包括的ではなく、委託金額をきちんと見直しをされること。

④不要不急の公共事業は行われなことを強く求めます。

さらに、①子ども医療費の助成制度は高校卒業まで拡充されること、②国保料・介護保険料は高過ぎるので引き下げをされること、③トイレのない忠岡小学校の校舎内にトイレを設置されること、④避難所ともなる学校体育館にエアコンを設置されること、⑤日曜健診の回数をふやすこと、⑥集会所トイレの洋式化などに取り組まれることなどを要望いたします。

町民の声をよく聞いて、町民本位の町政を行っていただきますよう強く求めて、2018年度決算を認めます。

委員長（三宅良矢議員）

ありがとうございました。以上で各委員の意見聴取を終わらせていただきます。

理事者の入場を求めますので、しばらくこの場でお待ちください。

（理事者：入場）

委員長（三宅良矢議員）

それでは、一括して採決させていただきます。

認定第1号、認定第2号を一括して採決いたします。

認定第1号 平成30年度忠岡町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算認定について、  
認定第2号 平成30年度忠岡町水道事業会計決算認定についてを、認定することに賛成の委員の挙手を求めます。

（全会一致）

委員長（三宅良矢議員）

ありがとうございます。委員会の採決の結果、全会一致であります。よって、当委員会

として認定することに決しました。

ただいま決しました内容につきましては、第4回定例会におきまして委員長報告をさせていただきます。

委員長（三宅良矢議員）

閉会に当たりまして、町長よりご挨拶願います。

町長（和田吉衛町長）

はい。

委員長（三宅良矢議員）

町長。

町長（和田吉衛町長）

平成30年度の決算審査をしていただき、慎重なる結果、ご認定いただいたことに対し感謝申し上げたいと思います。

皆さん方も選挙戦を通じて、私どもの行政に対する取り組みを発表されたと思いますが、脆弱な財政不足の中で何とか住民の満足度を高めていく、また停滞することなく着実に前進させていくということをお認めいただいていると思いますが、これからはしっかりと行政運営をしなくてはいけないと、こういうふうに思っております。

人口減少、また景気の動向が非常に危ぶまれる、こういう中ではありますが、審議中にもありましたように、私どもいろいろと広域化ということも1つの、そういった、これから変わる社会を変えていくと、こういったことの大切さだと思っております。もちろん福祉の広域化や、また府からの権限移譲等々を受ける中で実績がありますので、広域化の一つ一つをこなしていくことが成果を上げていると思っております。あと消防と、それからごみの焼却炉問題、これが大きな2つの課題ですけれども、これを1つの山場として持続できる体制をつくりたいと、こういうふうに思っております。

いろいろとこれからは教えていただかなあかんと思っておりますけれども、しかし、1日から消費税が導入されました。どうなっていくのか、本町の収入また住民の皆さん方の生活に大きな変化が出るのか、心配しております。消費税の増税とともに社会保障の充実といううたい文句はあるんですが、幼児教育無料にしたって非常に不十分な内容でありますので、私どもとしては、簡単に言いますと持ち出しも出てくるのではないかと、こういうふうに思っております。

今後とも議員の皆さんとともに頑張りたいと思っておりますが、何せうちは市に囲まれた町です。また政令都市に近い町です。そういうふうなところから、ラスパイレスにしても経常比率にしても、努力は一生懸命、足跡があるんですが、どうしても皆さんとの付き合いというものもあったり、所帯の貧弱さというものがあったりして、私どもの合理化の目標にはしておりますが、何とか政府の国の示す指数には持っていきたいと思っております。し



かし、それを持っていくことによって町民の生活が壊れてもいけませんし、本町の行政が推進できなかっていけませんので、一方の目標と、こういうふうにしていこうと、こういうふうにしております。

ひとつ今後ともいろいろとご指摘、またいろいろな方法、方策を教えていただけたと思いますけれども、きょうのこの審議を通じてしっかりと取り組みたいと、こういう決意でご挨拶にかえさせていただきます。

本当に3日間ありがとうございました。

委員長（三宅良矢議員）

委員の皆様方には、3日間にわたり慎重にご審査いただきましてありがとうございました。

本決算審査特別委員会の閉会に当たりまして、委員皆様方には審議に際しご協力賜り感謝申し上げます。また、理事者の皆様方におかれましては、本委員会で各委員より指摘がありましたことにつきまして、今後の行財政運営及び予算編成に当たりまして真摯にお取り組みいただきますことをお願い申し上げ、本委員会を閉会させていただきます。各委員並びに理事者の皆様方、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

（「午前10時28分」閉会）

以上、会議の顛末を記載し、これに相違ないことを証するため、ここに署名いたします。

令和元年10月11日

決算審査特別委員長 三宅良矢

決算審査特別委員 前川和也

決算審査特別委員 杉原健士